

## 「私の第一声⑥」

### 【高校時代②】

私が小学生の頃、テニスの世界にスターがいました。粘り強いストロークのビヨン・ボルグやクリス・エバート・ロイド、ネットプレーのジョン・マッケンローやマルチナ・ナブラチロワ。トップスピンやサーブ&ボレーといった今では普通の技術が、必殺技としてもてはやされていました。スターに憧れ、私も硬式テニスを少しかじりますが、中学校には硬式テニス部はなく、しかたなくサッカー部へ入部しました。高校でようやく念願の硬式テニス部に入ります。

この部は顧問の指導はなく先輩が後輩に教えていました。1年生は玉拾いと腕立て・腹筋・ランニング主体のトレーニングです。ランニングは学校の周りを走ります。ゆっくり走っているのが見つかりと距離を加算されるので、先輩が見ている可能性のあるコートに面したサイドに入る角を曲がった時だけ全力で走るというずるいこともしていました。ばれて、ゲロゲロ吐くまで走らされたこともありましたが。

ちなみに、隣で練習している軟式テニス部は、2年前まで沢口靖子が所属していて人気のクラブでした。高校の塀は当時コンクリート製で、上部にガラスの破片を埋め込んだり有刺鉄線をまいてあったりしたのですが、それをものともせず、沢口靖子をひと目見ようと他の高校などからたくさんの方が覗きにきて、塀の上に並んでいたそうです。

さて2年生になる頃、私は技術指導のないことを物足りなく感じます。自分で情報を集めて頑張れば良いのですが、その根性がありません。自分たちの代になった時、顧問に指導に来てほしいと頼みますが叶わず、情けないことですが、そこで、私のやる気が途切れます。自分が頑張ろうと思っていることを支えてくれたり教えてくれる人が身近にいたりすることは、実はとても幸せなことなのだと感じました。

私は、後に、最初の赴任校でバスケット部顧問となるのですが、指導者不在の苦しさを覚えた経験から、がんばろうとする生徒の力になりたいと未経験だったバスケットボールを必死に勉強することになります。

高校時代に戻ります。間の悪いことにこの頃、体調を崩します。数日かけてだんだん小便の色が濁り、「？」と知っているうちに真っ赤に

なり、針を突き刺したような痛みと残尿感が消えません。病院へいくと腎盂炎という診断。腎臓の尿がたまる部分に炎症が起こる病気です。抗生物質で菌を殺しつつ水分を大量にとり大量に出せと言われました。

今でも大量に水分をとる癖が抜けません。中華屋に行くと大きな水差しがありますよね。あれをお代わりするほどがぶがぶ飲みます(笑)

この治療で、とても恥ずかしい思いをしました。治療台に寝かされた私は、尿道の先から管を差し込まれ、そこから液体を注ぎ込まれます。だんだん膀胱に液体がたまり、同時に寝かされていた治療台が「ウーン」と立ち上がり、私は両足で立つ姿勢になります。両足の間には、上に液体を受ける小さいカップがついた低いマイクスタンドのようなものが置かれます。その時、大学生風の若い男女が7~8人、部屋に入ってきました。実習を見学にきた、医者か看護師の卵のようです。病衣を羽織っているだけの、ほぼ裸の思春期の私が、恥ずかしくないわけがない。「えーっ？こんなあり？」と思ったのと、膀胱が一杯になったのが同時でした。急激な尿意に我慢できず、尿道の先から液が溢れ管が外れます。すぐにカップを溢れた液体が股間からジャボジャボ床を濡らします。慌てた私が手でカップを支えようすると、医者の声が響きます。「触っちゃダメ！撮影中だから隠さない！それオシッコじゃないから気にしないで！」病衣がまくれて半分見えているのを隠すことも出来ず、笑うのを必死に耐えている年の変わらない男女に見られている状況は、膀胱が空になるまで長〜く続きました。

どうやらレントゲンの透視で膀胱から尿の出る様子を観察し炎症や排尿機能の状況を確認していたようですが、専門家が良かれと思っ

てやっていることが、実は当人を深く傷つけている場合があることを身をもって経験しました。教職員と生徒にも言えることだと思います。

入院はせずに済みましたが通院での治療です。2か月以上かかって完治した頃には、部活に打ち込む気持ちをなくしていました。部活の仲間は素晴らしい人たちだったので、退部はせずにすんだのですが…。

【不定期コラムNo.17】へつづく

### 第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

貝塚第三中学校HP



貝塚第三中学校HP